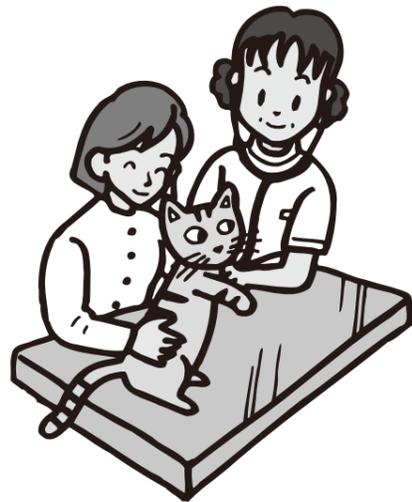


獣医師って動物のお医者さん？

高3 保護者



「動物のお医者さん」というマンガやTVドラマなどの印象から、獣医師というと動物の医者というイメージが定着しています。けれども、実際に獣医師が活躍しているフィールドは広範囲に広がっています。さらに、豚インフルエンザやBSEをはじめとする人畜共通疾患研究など獣医師が求められる分野も広がっています。

また、獣医学を学ぶということが、医学部で学ぶということと根本的に異なっているのは、人間のために動物医学の勉強をするということだと思います。

☆ 獣医師になるには？

大学で6年間獣医学を学び、獣医師国家試験に合格すれば獣医師になれます。医師と異なり臨床研修はありませんが、大学で学んだことだけで仕事がこなせるわけでもありません。臨床を行う場合はもちろん卒業後も日々勉強の毎日により、立派な獣医師が作られていくわけです。

ただし、日本で獣医学を学べる大学は、国立10校・公立1校・私立5校しかなく、合計定員わずかに930名となっています。さらに国家試験の合格率も80%前後であり、毎年1000人弱の獣医師しか誕生しません。これは、医師が毎年約9000人・薬剤師が約13000人誕生するのに比べると狭き門というしかありません。

☆ 大学でどんな勉強をするの？

大まかに分けると基礎分野・臨床分野・応用分野ということになります。

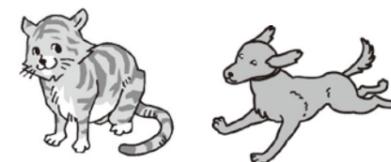
基礎分野は解剖学・生理学・薬理学・微生物学など、ヒトの医学と重なる内容の多い分野です。

臨床分野はいわゆる動物のお医者さんですね。ただし、この分野は小動物臨床(犬や猫などのペット対象)と大動物臨床(牛や豚などの家畜動物対象)に分けられます。

応用分野は人畜共通疾患や食の安全といった公衆衛生を中心に学びます。

大学によって、特定分野を専門とする先生がいるので、もし牛の勉強がしたいというように目標が決まっているなら大学を絞るのもいいかもしれません。が、とにかく獣医になりたいと思っているなら獣医学科に進学してから専攻を決めても十分間に合います。また間口が広いので、動物のお医者さんを目指していたはずなのに意外な分野の勉強に興味をわいたりする学科が獣医科です。

ただし、大学ではそれなりの実習はありますので、動物が苦手という人にはやはり無理があると思います。また、大学生活をオシャレに楽しみたいという人にはちょっと大変かもしれません。



☆ どんなところに就職するの？

全体から言えば臨床系に就職する人は4割です。公務員が4割、残りの2割は製薬会社などの企業や医学・薬学系の研究者というところですね。この中で一番仕事内容が多岐にわたっているのが公務員です。農水省につとめる役人から県庁・府庁の家畜担当・食品衛生担当あるいは運がよければ動物園の獣医さんに

なれるかも…。職域が多岐にわたっている分どこに配属されるか、そのときの欠員状況次第ということも考えられます。

もちろん獣医師といえども公務員になるためには公務員試験を受験し合格しなければなりませんし、企業に就職するためには就職試験を受けなくてはなりません。また、就職の内定が出たとしても、学生生活最後の3月に行われる国家試験に合格しなければ1年間の無職生活が待っているわけです。



このNavi冊子では獣医師という仕事について簡単な解説をしました。Naviゼミにおいて小動物診療に携わっている高3保護者と、その大学時代の恩師である岩手大学特任教授、品川邦汎先生の2名で具体的な仕事内容や面白さについてお話ししたいと思います。品川先生は細菌性食中毒についての第一人者であり、Y牛乳食中毒事件でも、その原因解明の中心となられた先生です。獣医師の仕事にはこういう分野もあるのかと思うような面白いお話も聞かせてもらえると嬉しいです。